

三条別院のご案内

三条別院に想う

【特別編特別編⑩新型コロナウイルスと薬について】

▲新型コロナウイルス感染症のワクチン接種がはじまり、また治療薬の研究もすすめられていて、薬学についての関心も高まっています。今回は現役の薬剤師で慶喜坊守の泉美樹子氏に、新型コロナウイルス感染症流行下で考えられていることを執筆していただきます。

私は現役の薬剤師といっても：現在は薬局からSOSが入った時に出勤する位です。その他に新潟県薬剤師会が県民に対して開催している「薬のセミナー」の担当として各地の会場にお話に行く仕事を二十年ほどしています。お寺の坊守だという縁で自坊や他のお寺でもお話の機会を頂いています。

最近、会場での質問はコロナウイルスやワクチンのことがとても多くなりました。

得体のしれないわからないもの：には人は恐怖を感じます。

SNSでの誤情報の拡散があったりテレビ報道も恐怖をおおるニュースに視聴率が集まります。

そのような中、大切なのは正しい知識を得ることです。

従来はワクチンのように、そのもの自体を薄

真宗大谷派二条別院

TEL : 0256-33-0007 FAX : 0256-33-2847

E-mail : sanjo-beisun@wing.ocn.ne.jp

めて作成しているのではなくワクチンの設計図だけを体に記憶させているのだということ、十二歳以上のワクチン接種についてはデータの蓄積がしっかりある上での国の方針であること、変異株においては感染した若者が重症化することも多く、ワクチンで自分と周りの人を守ってほしいことなど。

ワクチンの集団接種会場のお手伝いに行ったときのことです。

予診票確認の担当でした。自分の病気と飲んでいる薬を記入する欄がありますが、お薬手帳を出して、こんな狭い欄に全部書けないから大事なだけあなた書いてくれ：という方や、自分が何の病気でこの薬を飲んでるのか？を把握していない方が多いことに驚きました。毎日自分の体に入っているものなの：：

法話を聴聞しているとよく「自己を知る」という言葉に出遭いますが身体に関してもしっかりと自分で起こっていることを引き受け正しい知識の中、いろんな判断・選択をしていきたいですね。

また薬局にはコロナ感染者だった方や、濃厚接触者としてある時期を過ごした方も見えますが皆さんが共通しておっしゃるのは「実はコロ

ナより世間が怖かった」という言葉です。

治療薬も開発が進んでいます。他の感染症のようにもしコロナにかかっても適切な治療を安心して受けられる日が近いことを願います。

(資料 厚生労働省HP・こびナビHP)

泉 美樹子氏 (第二十三組慶喜寺)

○次回の「三条別院に想う」は、

SANJO PUBLISHING

よりご執筆いただきます

店舗オープンにあたって

この度、Next Commons Lab三条(「SANJO PUBLISHING」)という本屋さんをオープンします。三条市・中央商店街にある民権館をリノベーションし、まちの本屋さんです。皆さんに役立つ本があり、いまは本屋さんに行くことがとても難しい時代です。本を雑誌も売れません。出版業界はなかなか厳しいです。本屋を営むという覚悟です。Amigoを販売する、めいめいと本を読む時間がいかに楽しいかがオンライン上にあらわれています。

書店の数はここ20年で半減し、本屋さんがいなくなるのは寂しいにほなりません。では本屋さんの役割はもう終わったのか？いえ、わたしたちはもうは思っています。まさに本屋さんがいることこそが大事なことだと思っています。

ものづくりのまち三条は、これからの時代に何をすればいいのか？ものづくりの価値を高めるためのアイデアを提案する本屋の役割です。そのアイデア、実践に活かせるための環境づくりは急務です。そこで「SANJO PUBLISHING」は、「編集するまち」をコンセプトに、ものづくりのまちに必要な力である、知識を得ること、想像すること、つなげること、つくること、書くこと、続けること、をまるごと提供できる、新しいタイプの本屋さんをつくりたいと思います。

「SANJO PUBLISHING」のサービス

本の販売	喫茶・軽食	編集・制作
------	-------	-------

本屋さんにこだわりの本を販売します。ものづくりのまち三条の魅力を伝える本を販売します。本の紹介や本の購入のサポートをします。本の紹介や本の購入のサポートをします。本の紹介や本の購入のサポートをします。

本屋さんにこだわりの本を販売します。ものづくりのまち三条の魅力を伝える本を販売します。本の紹介や本の購入のサポートをします。本の紹介や本の購入のサポートをします。本の紹介や本の購入のサポートをします。

本屋さんにこだわりの本を販売します。ものづくりのまち三条の魅力を伝える本を販売します。本の紹介や本の購入のサポートをします。本の紹介や本の購入のサポートをします。本の紹介や本の購入のサポートをします。

SANJO PUBLISHING
〒955-0071
新潟県三条市本町2丁目13-1
nextcommonslab.jp 電話
note:note.com/ncl_sanjo



【次回は特別編⑩感染症流行下での街づくりについて】

▲二〇二二年の二月に三条市の中央商店街に本屋「SANJO PUBLISHING」ができました。「まちを編集する本屋さん」をモットーに、本屋さん、喫茶・軽食、編集・制作の三つの事業を育てていき、またものづくりをしたくなる環境をつくることを目的としているというコンセプトです。感染症流行下ですが、本年には公立四年制大学である三条市立大学も創設され、若者も増え、人の流れもかわりつつあるようです。とかく暗い話題に終始しがちな昨今ですが、積極的に「まちを編集する」ということの意味についてお聞きします。

本年の秋彼岸会・朝の人生講座は九月二十日から二十二日の日程で勤められました。テーマは「食」。講師、講題は次の通り。



【生きるために必要な「食」について語る】

二十日
人生講座 手島 創 氏 (第二十二組順了寺)
「カフェに起ちて」(写真左上)
速夜法要 武樋 隆如 氏 (第十四組蓮光寺)
「安楽のとき」(写真右上)
二十一日
人生講座 関根 正隆 氏 (第二十二組長徳寺)
「仏事と食事」(写真中左)

日中法要 (永代経総経)・速夜法要
平出 京子 氏 (高田教区願生寺)
「食べることでつながる お寺の子ども食堂」
(写真中右)

二十二日

人生講座 唐橋 聡 氏 (第二十三組照善寺)

「子ども食堂とお講」(写真下左)

日中法要 佐々木 ひとみ 氏 (第二十三組福明寺)

「食は生きる糧」 人間食べた物で作られる

(写真下右)

新型コロナウイルス感染症の流行が始まった昨年以來、三条別院では「フードバンク」事業への協力、職員による「#三条エール飯」等を始めています。また、各寺院では葬儀や法事の際にお齋が中止になることも増えています。そんな中、今回は「食」という身近で大切な問題について、あらためて考えてみました。

①武樋氏は特に「仏事としてのお齋」の意味について、「好きな人も嫌いな人も集まって、法事での法話の内容を確かめていくこと」とされ、「教行信証」後序の直前の引文で、親鸞聖人が読み替えた『論語』を紹介されました。

論語に云わく、季路問わく、「鬼神に事えんか」と。子の曰わく、「事うることをあたわず。

人いづくんぞ能く鬼神に事えんや」と『真宗聖典』三九八頁。

仏の覚りとは「無上正等覚」とされる。上がないとは厳密にいえば「下がない」こと。平等の世界。鬼神とは奉られる人の象徴であり、それが無い世界が仏の世界だと言われました。

②手島創氏は人気フランス家庭料理店Cafe & Brasserie oiseau (オワゾ)の店主。「カフェとお寺は総合的な雰囲気づくりという意味で似ている、どちらもうちひしがれている時、悩みを抱えている時に、立ち止まっ

て客観的に考えられる場所」と話されました。そして「食の豊かさは人生の豊かさ」という言葉を紹介され、美味しいコーヒーをゆっくり淹れる方法も講義していただきました。

③関根正隆氏は「しばた寺びらき実行委員」、「フードバンクしばた」の運営委員、「御坊市実行委員」としてお寺を地域に開いていくことを実践されてきましたが、その原点は実は小学生時代に参加した「三条教区児童夏の集い」ということです。魚のつかみ取りをして、その場で調理して食べ、非常に美味しくそして印象的だったようで、それを小学校の文集にも記しているそうです。「食はもつとも残酷な行為である」とも話されました。

④平出京子氏は大阪生まれで、結婚され、妙高市新井の願生寺に入寺してお寺を立て直していく経緯と子ども食堂の大切さを語っていただきました。三条別院の成り立ちと願生寺「詳しくは廣澤憲隆「大谷派三条別院の成立とその背景—願生寺事件と仏光寺派転派問題—」(なむの大地)所収」は深い関係があり、一時期無住の時期もあるお寺に入り、一から人間関係を作り、その一環ではじめたことが、「子ども食堂」なのだと言われました。

⑤唐橋聡氏は日本における「子ども食堂」の発生から浄土真宗の御講の類似性をお話しいただきました。子ども食堂の目指す多世代交流の場すなわち「包摂社会」という言葉は、浄土真宗の大切にする阿弥陀如来の「摂取不捨」と共通する。また、「貧困という言葉の扱いづらさ」についてもお話しいただきました。

⑥佐々木ひとみ氏は夫である前住職の病氣と看病の話から、突然のアレルギーでのアナフィラキシーで、食べ物と人間の体の関係について真剣に考えるようになったということです。

生き物は食べることができないと生きられない、そしてある種単純な仕組みである故に世間の価値からこぼれ落ちてしまうことがある、さらにこぼれ落ちるものがないようにという取り組みは、かえって生命の力強さを感じる、平出氏を始めとして各講師のお話を聞き、そんなことを感じました。

二十一日は本年十一月のお取り越し報恩講のために、三条料理業組合（魚長・きくや・小山西・福海老・松木屋・二洲楼）に依頼している「御取越御膳」（精進弁当）の試食会がありました（写真上）。もちろん糍屋団四郎の「こぼさまの辛みそ」も入っています。皆さんの感想を受け、さらに内容を吟味していきます。ちなみに人生講座では今回も中央商店街のコロネットのパン（写真下）も配布し、好評でした！



慶讃 お待ち受け 定例法話

毎月十三日の闡如上人のご命日（両度の命日）に行っている定例法話を左記の通り開催いたします。二〇二三年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年をお迎えします。三条教区・三条別院では、慶讃お待ち受け事業として、「三条別院 定例法話（十三日御命日）」を通常より拡大して、開催いたします。慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」のもと、宗祖親鸞聖人の「御誕生」と「立教開宗」の意義をたずねて参りましょう。どなたでもご参加できます。皆様の御参詣お待ちしております。

◆講師

十月・三月 寺澤 三郎氏（北海道教区 教證寺）

「お念仏申す生活」

◆今後の講師

十一月・四月 中山 善雄氏（教学研究 所 研究員）

十二月・五月 澤面 宣了氏（長浜教区 浄願寺）

二月 水嶋 聡氏（高田教区 光徳寺）

◆日時・日程

毎月十三日 午後一時半 お勤め・感話

二時 法話

三時半 座談

四時半 終了（予定）

◆持ち物：念珠、勤行本（赤本）、

略肩衣（お持ちであれば）、筆記用具

◆場所 三条別院 旧御堂

宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。なお、前日（二十七日）はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◆日時 十月二十八日（木）午前十時より

◆会場 三条別院 本堂

◆お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

佐々木 祐玄氏（第十五組光善寺）

御文五帖目 一通「八萬の法蔵」

◆今後の講師一覧（御文五帖目）

十一月 村手 淳史氏（第二十組光圓寺）第十一通（御正忌）

十二月 北島 栄誠氏（第十一組長福寺）第十通（聖人一迹）

フードバンクを継続中

八月の別院でのフードドライブに

「協力いただいた御寺院・御門徒」

第十七組光照寺、第二十三組慶誓寺、佐渡組専徳寺、

佐渡組門徒 その他匿名含め多くの方々に「協力いただき御礼申し上げます。次回引き取り予定日は十月二十五日

（月）です。

今年の秋彼岸会のテーマは「食」で、昨年から関

わっている新潟県フードバンク連絡協議会事務局長の小林淳氏にも、フードバンクの取り組みについて、お話いただきました。いま、感染症の影響によって、特にひとり親家庭の生活困窮が深刻化しています。その状況をうけ、県内十のフードバンク地域組織が連携し、ひとり親家庭への食品や衛生用品の緊急援助を県域で実施する『子ども未来応援プロジェクト』を開始したことがまず話されました。そして、フードバンクの社会的役割が、食糧支援だけでなく多様な活動の協働を促進する中間支援組織へ変化してきたことや、食品を戸別配達した際に「子どもは一日二食、私は一食。子どもにおかわりもさせてあげられないことが辛い」、「楽しみにしていた部活や進学をあきらめてもらった」といった悲痛の声があるなど、連絡協議会として携わる中での実情を報告いただきました。最後には、子どもの未来を、その親子の事実と寄り添い、共に応援する地域資源として、今後も活動を継続していきたいと話されています。感染症によって、生活困窮の問題はより顕在化しました。これは、元からあった問題に、ようやく気付くことができたとも言えます。気付きたいま、私に何ができ、何をすべきなのか。「食」にテーマを絞ったこの秋彼岸会で、改めて考えさせられたことです。(廣河)

お取り越し報恩講について

儀式作法講習会 (詳細は報恩講のご案内参照)

十月十二日(火)午後三時から午後五時まで

内陣出仕・退出の作法中心の講習会です

「帰敬式申込用紙」(裏面)の誤植の訂正について
 【訂正前】期日 2021年11月6日(土)及び7日(日) 午前10時 **結願**日午後 本山鍵役執行
 【訂正後】期日 2021年11月6日(土)及び7日(日) 午前10時日午後 本山鍵役執行
 例年通り11月6日・7日の二日間の執行となります。

その他の講座案内

○別院声明教室(全五回・途中参加可能 生徒募集中!)

〔月一回、午後六時〜八時〕

十月十四日(木)、十一月十六日(火)、十二月十四日(火)

講習内容 真宗大谷派勸行集(赤本)

講師 廣河 暁氏(第二十一組光照寺) 五〇〇円/回

○別院書道教室 (生徒募集中!)

〔月二回第一、第四水曜日、午後六時三十分〜八時〕

講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

月謝 二七〇〇円(テキスト代含む)

玉川堂職員研修でご参拝いただきました



【寺院建築の金具を中心とした諸殿拝観】

◆編集後記◆

お彼岸の墓花を片付けながら、墓参りに来られる人々の多くはどのような心持ちで参るのであるかと、ふと考えた。生んでくれたことの感謝?それもあるであろうが、それだけでは墓内に収められている可能性がある親戚に関しては説明がつかない。

定例法話にて水嶋聡氏が、今の世の中には「善人教」とも言える風潮があると御法話されていた。自分の存在意義として、まず「世の中の役に立ちたい」、それが駄目になれば「世の中の邪魔にならないようにしたい」、さらに老いて自分がまわりの邪魔になっていると感じるようになると「もう死にたい」「この世からいなくなりたい」。これでは、お墓に参る意味とは?

ラジオで中島岳志氏が「死んだらもう終わり」という考え自体が間違っていると話をされていた。その根本原因は自身が当然のように享受している今現在の世の中が、過去の人々が紡いできた文化、技術、諸々の上になりたっていることに無自覚であるからだとする。皆、どのような形であれこの世の中の紡ぎ手であり、次世代に自身が紡いできたものが受け継がれ死んだあとも残っていく。それゆえ、お墓には感謝の意をもって参りすべきなのだ。

「亡き人を縁に阿弥陀如来への感謝を再確認すること」過去より紡がれてきたことの一つだ。水嶋氏は「善人教」が弥陀の信心への妨げになっていると言われていた。自身がこの世の中に対する無力感を抱えているからこそ、逆に「役に立ちたい」という意識が強く表れる。それゆえ、弥陀にすべてをお任せしたた生きていくということが次世代への「紡ぎ」となっていることに気づきにくいのかも知れない。

そのように考えているところで、最後の墓花を片付け終わったようだ。(松浦)